



ケニアの伝統的なパフォーマンスを学び、友人と共にナイロビ国立博物館の舞台上で披露。



PWJが建設した仮設住宅とそこに住む家族。



ナイロビ市内が一望できるケニア国際会議場の屋上から見た景色。



The Republic of South Sudan

### ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

## 世界最大規模の難民問題と輝きを放つケニア

### アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になり、やがて世界で起っているいろいろな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

### PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようにしました! 左のQRコードからアクセスしてみてください! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク4月号の販売部数  
**6,872部×3円=20,616円**

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds JAPAN

タウトク medicomm inc

株式会社メディコム  
月刊タウン情報トクシマ編集部

皆さん、こんにちは。ケニアの首都ナイロビにあるPWJ事務所でインターンをしている、香川と申します。私は大学四年生で、昨年からナイロビ大学に交換留学をしています。今回は、私がインターン活動やケニアでの生活を通して感じたことをご紹介します。

世界が今直面しているのは、戦後最大と叫ばれている難民問題。2011年から内戦状態が続いているシリアからの難民を含め、世界全体での難民や避難民の数は今や6000万に上ると言われます。国連機関やNGOなど様々な主体による支援活動が行われていますが、未だ多くの人々が苦境にあえいでいます。ケニアには、ソマリア国境寄りに世界最大の難民キャンプの一つであるダダーブ難民キャンプ、南スーダン国境寄りにカクマ難民キャンプがあり、PWJはその両方で支援活動を行っています。ダダーブ難民キャンプで唯一、仮設住宅新設事業を行う団体として、難民の人々の笑顔を咲かせているPWJの活動に感銘を受けた私は、インターンとしてその事業運営に参加することを決意しました。

インターン活動を通して私が感じたことは、まず一つ目に、「快適な住居の重要性」です。翻訳作業を任せられ、ダダーブ難民キャンプでの事業の現場レポートと受益者インタビューを読んだとき、PWJが建設した仮設住宅を提供されて喜んでいる難民の人々の姿がとても印象的でした。以前までは、住居がない、破れたテントに住んでいるため雨風をしのげない、テントが小さいため病気の家族を看病するのが難しい、など様々な問題を抱えていた難民の人々が、今はPWJが提供した仮設住宅に住み、皆とても嬉しそうにしている様子がコメントや写真から伝わってきました。住居は、単に生活に不可欠なものだけでなく、難民の方々の健康や心の豊かさにも繋がっているのだと強く感じました。

二つ目に、「犠牲となる子どもたちの存在」です。世界の難民の約半数を占めるのは子供たちであり、例えばダダーブ難民キャンプに住む約35万人のうち、6~7割を24歳以下の若い世代が占めています。私と同じ世代、さらにはうんと年下の子供たちが、家族と離れ難

れになったり、住み慣れた場所を追われて行き場を失ったりしていることを考えただけで、とても胸が痛みます。未来を担う大切な子どもたち。躍動する生命の波を広げる大きな使命を持った子どもたち。今、彼らと共に歩む国際的な支援が必要であることをひしひしと感じました。

この記事を読んでくださっている皆さんは、アフリカに対してどんなイメージをお持ちでしょうか。サファリに代表される大自然のイメージも強いでしょう。その一方で、貧困・飢餓・疫病などのマイナスイメージもあると思います。私はケニアで、そうした一般的なイメージの対極にあるものをたくさん見ました。ケニアには雄大な自然もありますが、首都ナイロビは、高層ビルや大型ショッピングモールが立ち並び、洒落た服を着こなした人々と車やバイクが行き交う大都会です。貧困等の課題を抱えているのも事実ですが、アフリカには、人々の溢れる生命力や、互いに助け合い相手を思いやる心といった、人間的な豊かさがあります。私はナイロビ大学でたくさんの学生に出会いましたが、皆温かく、たくさん支えてくれて、彼らには感謝の思いでいっぱいです。難民問題のような世界的な課題の解決を図るにしても、最も重要なことは、自分の目の前にいる人を心から大切にすることではないでしょうか。私たち一人一人のこの地道な一歩が、きっと平和への貢献に直結すると私は確信しています。

報告:香川由香(PWJナイロビ事務所インターン)



初めて仲良くなった温かいクラスメート。

\*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみさまによる寄付金により実施しています。